

## 震える心

君は、はじめは無頓着に見えた  
けれど・・・流れ出ていた  
力と共に、溜息にも似たあの音  
なだれ落ちる如くくずおれた心で  
さらに煙草にしゃぶられようとして

君が投げて寄越したあれは  
僕を後悔に悩ませる白い丸薬  
最後の君が微笑する唇  
知る筈もあるまい  
ひとつの背中が歩み去る谷間を

多分無神経に見えたらう  
君から見れば、この僕もまた  
振り返ることの悔しさに  
震える心は目を閉じ  
否定に否定を重ね続ける、この僕もまた

(1983.5.8)